

紹介件数 四三三 九七五 一、四九九
 就職者数 二四八 四四七 二、五九七
 求人数に対する就職者数の割合
 本月 前月 前年同月
 四六・二・五% 二八・三・八% 三一・七・七%

求職者数に対する就職者数の割合
 一四・三% 二二・二% 一五・六%
 之を前月に比較するに求人数に於て二二四人減少し求職者数に於て一六一人増加せり。就職率に於て八%低下した主なる原因は東京地方職業紹介事務局へ三越より申込ありたる女店員求人一〇〇人に對する就職者未だ決定に至らざる爲である。

二、需給關係
 本月末現在未紹介求人数一四〇人にして前月の四三〇人に比し二九〇人を減少し又月末現在未紹介求職者数は一、八二七人にして前月の一、四六九人に對し三五八人の増加となつて居る。求人の主なるものは

- 商會社 一四八人(男一六六人女八二人)
- 官公署 一〇七人(男一〇三人女四人)
- 個人商店 七八人(男七三人女五人)
- 工業會社 一九人(男一九人女一人)
- 個人工場 一九人(男一九人女なし)
- 新聞雜誌社 二人(男一人女一人)
- 求職者希望職業の主なるものは
 商會社 一、二八一(男一、〇八八人女一、一八三人)
 官公署 二四〇人(男二四〇人女一人)
 個人商店 一五二人(男一三二人女二十人)
 工業會社 七九人(男七九人女一人)

銀行 三三人(男三二人女一人)
 學 校 二八人(男二七人女一人)
 等である。
 三、求職者の教育程度
 中等學校卒業及同程度以上の者
 一、七五五人(男七一六人女一、〇三九人)
 專門學校卒業及同程度以上の者
 一五〇人(男一二八人女二人)
 大學卒業 二人
 二六人(男二四人女二人)
 其他の者 一三三人(男一一四人女一九人)

四、就職者職業別
 官公署 一三五五人(男三三人女一四二人)
 個人商店 五〇人(男四四人女六人)
 商會社 四二人(男三九人女三人)
 工業會社 一四一人(男一三二人女九人)
 個人工場 一四一人(男のみ)

昭和五年八月俸給生活者職業紹介取扱成績
 保險會社 三人(男のみ)
 新聞雜誌社 三人(男二人女一人)
 銀行 二人(女のみ)
 其他 三二人(男一五人女一七人)
 合計 二九五五人(男一、〇八八人女四六七人)
 就職者の給料
 大學卒業 最低 四五四圓
 男最高 一〇〇圓 最低(住込)一〇圓
 女最高 七〇圓 最低 六〇圓
 專門學校卒業及同程度以上の者 男最高 七〇圓 最低 二〇圓
 女なし
 中等學校及同程度以上の者 男最高 一〇五圓 最低(住込)一〇圓
 女最高 四五圓 最低 二〇圓
 其他の者 男最高 七五圓 最低 二〇圓
 女最高 三六圓

業 種 別	性 別	求 人 数	求 職 者 数	就 職 者 数	月 末 現 在 未 紹 介		給 料	
					求 人 数	求 職 者 数	最 高	最 低
商 會 社	計 女 男	一、四八八	一、八二七	一、四六九	一、四六九	七、七〇	三、〇〇	
官 公 署	計 女 男	一〇七	一、〇七〇	一〇七	一〇七	七、〇〇	三、〇〇	
個 人 商 店	計 女 男	七八	一、〇七〇	七八	七八	七、〇〇	三、〇〇	
工 業 會 社	計 女 男	一九	一、〇七〇	一九	一九	七、〇〇	三、〇〇	
個 人 工 場	計 女 男	一九	一、〇七〇	一九	一九	七、〇〇	三、〇〇	
新 聞 雜 誌 社	計 女 男	二	一、〇七〇	二	二	七、〇〇	三、〇〇	
保 險 會 社	計 女 男	一	一、〇七〇	一	一	七、〇〇	三、〇〇	
商 會 社	計 女 男	一、二八一	一、八二七	一、四六九	一、四六九	七、七〇	三、〇〇	

職業紹介聯絡取扱概況 (八月分)

一、第一次 求人聯絡日報
 指定職業紹介所十五箇所中聯絡日報の發行なかりしもの十一箇所(西里鴨町、京都市中央、神戸市中央、岡山市、廣島市東松原、松山市、高知市、宇治山田市、下關市、南館市、小樽市中央各職業紹介所)

求 人 数 四、四一九人 男三、四六九人 女一、〇二〇人
 求 入 口 数 一、九六五 男一、〇七二人 女八八三人
 紹介状交付数 一、二九二人 男一、〇七二人 女二二〇人
 就 職 者 数 二二七人 男一九四人 女三三人
 求人数に對する紹介状交付数の割合
 本月 前月
 二九・二八% 二八・二五%

求人数に對する就職者数の割合
 五・三六% 五・一三%
 紹介状交付数に對する就職者数の割合
 一八・三四% 一八・一八%

二、第二次 求人聯絡日報
 指定職業紹介所三四箇所中聯絡日報の發行なかりしもの二箇所(横濱市中央、宇都宮市、甲府市、千葉市、大阪市中央、京都市中央、神戸市中、岡山市、廣島市東松原、高知市、名古屋市中、静岡市、津市、岐阜市、下關市、福岡、宮崎市、青森市、盛岡市、米澤市、郡山市各職業紹介所)
 求 人 数 一、一三〇人 男九二七人 女二〇三人

業 種 別	性 別	求 人 数	求 職 者 数	就 職 者 数	月 末 現 在 未 紹 介		給 料	
					求 人 数	求 職 者 数	最 高	最 低
工 業 會 社	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
個 人 商 店	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
個 人 工 場	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
學 校	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
雜 誌 社	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
其 他	計 女 男	一、九六五	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	
計	計 女 男	一、一三〇	一、二九二	一、〇七二	一、〇七二	七、七〇	三、〇〇	

求 入 口 数 四五一
 紹介状交付数 三五二人 男 三四二人 女 一〇人
 就 職 者 数 五九人 男 五三人 女 六人
 求人数に對する紹介状交付数の割合
 本月 前月
 三一・一五% 四六・八一%
 求人数に對する就職者数の割合
 五・二二% 三・八一%
 紹介状交付数に對する就職者数の割合
 一六・七六% 一四・二三%

三、第三次 求人聯絡日報
 大阪、名古屋、青森各地方職業紹介事務局管内に
 求 人 数 一、〇〇〇% 四三・一六%
 紹介状交付数に對する就職者数の割合
 六六・六七% 一〇〇・〇〇%

就職者汽車船賃割引證交付取扱心得改正ニ關スル件

九月十七日發業第六〇號(中央職業紹介事務所局長ヨリ各地方職業紹介事務所局長ヨリ)

九月十七日內務省訓令第二十一號ヲ以テ就職者汽車船賃割引證交付取扱心得改正セラレ地方職業紹介事務所ヨリ職業紹介所ニ對シ割引證ヲ交付スルコトニ相成候ニ就テハ之カ交付ヲ慎重ニシ其ノ濫發ヲ防止スルニ御留意相成度尙左記事項御了知相成度

一、右心得中第六條第二項ノ受持報告ノ取調メ方

法ハ從前通トスルコト

一、大正十三年十一月發業第三十三號通牒左記第三號ニ依ル返納割引證ハ地方職業紹介事務所限

內務省訓令第二十一號(九月十七日官報)大正十二年九月內務省訓令第二十三號職業紹介事務所又ハ職業紹介所紹介就職者汽車船賃割引證交付取扱心得中左ノ通知改正公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年九月十七日

內務大臣 安達 謙藏

第四條 地方職業紹介事務所局長ハ管下職業紹介所及自局分割引證ノ毎三分ノ所要數ヲ豫定シ中央職業紹介事務所局長ニ請求スヘシ但シ臨時必要ノ場合ハ其ノ都度請求スルコトナリ

職業紹介事務所打合せ會其他

○寶立村職業紹介所に於ては八月二十三日寶立村役場に於て社氏組合代議員職業紹介所後援會並職業紹介所職員等四十餘名出席し本年度酒造從業員求人口開拓に關する具體的方法に關し協議をなしたり

○名古屋市各職業紹介所定期事務所打合せ會は八月三十日名古屋地方職業紹介事務所會議室に於て開會し左記事項を協議せり

一、ラヂオ放送の效果方策如何

一、不良求職者防止策如何

一、聯合求人開拓實施に關する件

○寶立村職業紹介所に於ては九月四日事業宣傳映畫會を開催せるが集會者は八百餘名の多數を算したり

○門司市職業紹介所にては九月三日市役所集會所に於て夏期休暇利用就職児童並児童主學校制市當局の懇談會を開催したるが、勤勞児童の感想履修主の感想、實習生訪問者井上兒童研究所長の感想發表、伊藤、松本校長並來賓の講演あり勤勞精神鼓吹の歌を合唱し盛會裡に散會せり

○東京府職業紹介所主催の府下郡部各紹介所長定期事務所打合せ會は九月九日東京府職業紹介所會議室に於て開催したるが出席者は二十餘名にして當局より田宮東京地方事務所より内藤藤原席せり。藤原所長の開會の挨拶に次いで新設所長の個人紹介あり(一)聯絡事務所刷新に關する件(二)少年職業紹介事務所に關する件に關し協議打

職業紹介所長ニ在リテハ前項ニ準シ地方職業紹介事務所局長ニ請求スヘシ

第六條 職業紹介所長ハ毎月五日迄二前月中ニ於ケル割引證ノ受持ヲ別表様式ニ依リ地方職業紹介事務所局長ニ報告スヘシ

地方職業紹介事務所局長前項ノ報告ヲ受理シタルトキハ之ヲ自局分ト共ニ取調メ毎月十日迄ニ中央職業紹介事務所局長ニ報告スヘシ

第一號様式中「送達官廳」欄及注意第一項並第二項ノ「」ヲ削ル

第三號様式及第四號様式中「大正」ヲ「昭和」ニ改メ中央職業紹介事務所局長ノ次ニ「又ハ地方職業紹介事務所局長」ヲ加フ

職業紹介所ノ紹介ニ係ル就職者
運賃割引方ノ件
愛知縣西加茂郡猿十村大字越戸ニ本社ヲ有スル尾三自動車株式會社ニアリテハ職業紹介所ノ紹介ニ係ル就職者ニ對シ就職者汽車船賃割引證交付規程ニ準シ當局發行割引證引換ヲ以テ運賃三割減額方(五錢端數二拾三入)承認ノ旨名古屋地方職業紹介事務所局長ヨリ報告アリ

(註) 五錢端數二拾三八トハ三割引ノ賃金ガ二十二錢ノ場合ハ二十錢トナリ二十三錢ノ場合ハ二十五錢、二十七錢ノ場合ハ二十五錢二十八錢ノ場合三十錢トナリ外之ニ準ス

職業紹介所ノ紹介ニ係ル就職者
運賃割引方ノ件
愛知縣西加茂郡猿十村大字越戸ニ本社ヲ有スル尾三自動車株式會社ニアリテハ職業紹介所ノ紹介ニ係ル就職者ニ對シ就職者汽車船賃割引證交付規程ニ準シ當局發行割引證引換ヲ以テ運賃三割減額方(五錢端數二拾三入)承認ノ旨名古屋地方職業紹介事務所局長ヨリ報告アリ

(註) 五錢端數二拾三八トハ三割引ノ賃金ガ二十二錢ノ場合ハ二十錢トナリ二十三錢ノ場合ハ二十五錢、二十七錢ノ場合ハ二十五錢二十八錢ノ場合三十錢トナリ外之ニ準ス

五錢端數二拾三八トハ三割引ノ賃金ガ二十二錢ノ場合ハ二十錢トナリ二十三錢ノ場合ハ二十五錢、二十七錢ノ場合ハ二十五錢二十八錢ノ場合三十錢トナリ外之ニ準ス

勞働賃銀立替狀況 (八月分)

イ 市町村立職業紹介所勞働賃銀立替狀況

職業紹介所設置

△管轄別 福岡地方職業紹介事務所
名 稱 田布施町職業紹介所
位 置 田布施町田布施一三四

△管轄別 福岡地方職業紹介事務所
名 稱 山口縣熊毛郡田布施町一三四
取扱種別 一般紹介
認可月日 七月二十三日

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 旭村職業紹介所
位 置 新潟縣中頸城郡旭村大瀧新田五〇一

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 旭村
取扱種別 一般紹介
認可月日 九月一日至翌三月三十一日

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 川口村
取扱種別 一般紹介
認可月日 九月六日

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 川口村
取扱種別 一般紹介
認可月日 九月六日

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 川口村
取扱種別 一般紹介
認可月日 九月六日

△管轄別 東京地方職業紹介事務所
名 稱 川口村
取扱種別 一般紹介
認可月日 九月六日

Table with columns for location (e.g., 東京地方, 大阪地方), number of people (取扱人数), and amount (賃銀). It lists data for various municipalities and their labor wage substitution status for August.

合をなしたり。

○郡山市に於ては九月十五日郡山市公会堂に於て職業紹介委員会を開き、(一)職業紹介所家賃追加の件、(二)職業紹介所位置に關する件、(三)郡山簡易宿泊所改善に關する件を協議せり。

○大阪地方職業紹介事務局に於ては九月十九日同會議室に於て日傭労働紹介事務局を開設し、出席者は大阪府京橋、今宮、築港、京都市中央、神戸市東部堺市各職業紹介所長等にして各所長より失業救済事業の登録並進捗状況に關し意見の開陳ありたり。

○宇治山市職業紹介所に於ては九月十九日少年職業指導員協議會を開催し、(一)本年度各學校性能検査並器械搬當に關する件、(二)一般習能検査實施に關する件に付協議をなしたり。

○長岡市職業紹介所主催の少年職業指導講習會は九月二十一日の兩日長岡市役所樓上に於て開催したるが受講者は縣下紹介所職員小學校教員女師生等百三十餘名にして講師は文部省社會教育官水野常吉氏なり。

○福岡職業紹介所に於ては九月二十三日市役所委員會室に於て少年職業指導協議會を開催し、職業指導並紹介に關する、小學校並職業紹介所の意見を開陳し協議をなしたり。

○甲府市に於ては社會課主催にて兒童研究講座を開講したるが其の状況左の如し。

一、日時 自五月二十五日 至七月十九日 (毎土曜日午後二時より二時時間)
一、場所 春日小學校

一、講師及講習科目
イ、講師 福岡縣大宮村病院長醫學博士式場隆三郎
ロ、講習科目

一、兒童心理學概要
二、精神検査法一般
三、個性調査法
四、職業指導實施上の注意
五、劣等兒、低能兒の調査法及教育上の注意
○山形市職業紹介所に於ては夏期休暇中に於ける職業實習生を取扱ひたるが左の如し。

一、實習生選擇の方法
當所轄小學校の昭和六年三月卒業見込兒童にして直に就職希望の者に對し當校長、兒童の父兄及職業紹介所長等協議の上選擇せり。

二、實習の場所 官公署四、商店四
イ、實習生 三十二名(男八、女二四)
ロ、期 間 六日—十四日間

○前橋市職業紹介所に於ては夏期休暇利用職業實習實施の計劃をたて求人先開拓をなすと共に聯絡小學校及父兄との聯絡を圖り、希望者十九名の内九名を實習せしめたり、期間は八月五日より八月二十五日に至る二十日間なるも相當の成績を修め得たるものゝ如し。

辭令

京都府書記官 戸塚九一郎
兵庫縣書記官 田島義士
大阪地方職業紹介委員會委員ナ命ス

愛知縣書記官 熊野英

名古屋地方職業紹介委員會委員ナ命ス
徳山監督局長 吉田健三郎

福岡市長 久世庸夫
福岡地方職業紹介委員會委員ナ命ス
昭和五年九月十六日

内務省
東京商工會議所會頭男爵 郷誠之助
中央職業紹介委員會委員被仰付
貴族院議員 藤田謙一

中央職業紹介委員會委員被免
昭和五年九月十八日
内務省

福岡山太郎
名古屋地方職業紹介委員會委員ナ命ス
昭和五年九月十九日

内務省
商工省工務局長 吉野信次
東京市長 永田秀次郎

(各通)
中央職業紹介委員會委員被仰付
昭和五年九月二十日

内務省
職業紹介事務局 岡部久
依願免本官
昭和五年九月三十日

内務省
職業紹介所職員異動
八月一日 村上榮太
田布施町職業紹介所長(専)就任

同 書記 貫田千一
田布施町職業紹介所職員(専)就任
八月十一日 町長 永山宗太郎
小山町職業紹介所長(兼)就任
同 書記(専) 磯野新三郎
同 (兼) 松本信三郎
小山町職業紹介所職員就任
八月十二日 助役 菅野猛
魚津町職業紹介所長(兼)就任
同 書記(専) 小川未次郎
書記(兼) 堀川伊吉
書記(兼) 中居松之助
書記(兼) 柳川清長
魚津町職業紹介所職員就任
八月二十六日 助役 落合光造
津市職業紹介所長(兼)就任
八月二十九日 雇 三村常子
岡山市職業紹介所職員(専)就任
八月三十日 雇 西尾登
同 同 北村申二
同 同 若部初郎
京都市中央職業紹介所職員(専)就任
同 同 松本良芳
同 同 伊藤益治郎
同 同 杉浦文治郎
京都市七條職業紹介所職員(専)就任
八月三十一日 町長 町田幸吉
伊勢崎町職業紹介所職員解任
九月一日 町長 遠藤善右衛門
今市町職業紹介所長(兼)就任

同 書記 高橋林藏
今市町職業紹介所職員(専)就任
同 書記 森萬造
大垣市職業紹介所職員(専)就任
九月六日 書記 若原光五郎
米子市職業紹介所職員(兼)就任
同 村長 布施卓爾
旭村職業紹介所長(兼)就任
同 書記 島山義治
旭村職業紹介所職員(兼)就任
九月五日 雇 近藤富士明
飯塚町職業紹介所職員(専)就任
九月九日 助役 大作徳郎
大宮町職業紹介所長(兼)就任
九月十二日 雇 黒木近次
久留米市職業紹介所(兼)就任
九月二十二日 書記 内野朝吉
熊本市職業紹介所職員(専)解任
同 書記 阿部熊治
熊本市職業紹介所職員(専)就任
九月二十五日 書記 須崎弘平
上田市職業紹介所職員(兼)死亡解任

資料

營利職業紹介事業概況 (八月分)
昭和五年八月に於ける全國營利職業紹介事業の取扱概況を述べれば左の通りである。

一、營業者數
本月に於ける營業者總數は三、二四六人にして

前月に比し一七人の増加となつてゐる。その内實際に取扱をなせる營業者の數は二、一〇八人にして前月に比し三二人の増加を示してゐる。而して之等取扱營業者の數は東京地方職業紹介事務局管内に五八六人大阪地方職業紹介事務局管内に九二七人名古屋地方職業紹介事務局管内に二七五人福岡地方職業紹介事務局管内に二四八人青森地方職業紹介事務局管内に一九六人を數へてゐる。
尚取扱營業者五〇人以上を有する府縣は左の如くである。

大阪府	三四〇人	東京府	二八四人
兵庫縣	一六六	京都府	一一〇
愛知縣	九六	香川縣	八三
群馬縣	七六	山形縣	七五
福岡縣	七四	北海道	七四
長野縣	六九	静岡縣	六七
奈良縣	六四	埼玉縣	六四

二、一般職業紹介
イ、取扱概況

求 人 數	男 三、九四八	女 七、七六四	計 一、七六四
求職者 登錄數	三、九四八	四、〇二四	六、七〇二
求職者 再來數	六、二二	八、二八	一四、五〇〇
紹介件數	三、九三六	四、九三六	六、八七二
就職者數	一、四八六	二、四七〇	三、九五六
求人數に對する就職者數の割合	本月 八六%	前月 七八%	前年同月 七八%
求職者數に對する就職者數の割合	本月 七八%	前月 七八%	前年同月 七八%

無料船員職業紹介状況 (八月分)

逓信省管船局

種別	求人数		求職者数		就職者数
	前月	本月受	前月	本月受	
都市別	未済	未済	未済	未済	
東京	一六三	一四一	一三三	一四七	一七
横濱	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
名古屋	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
大阪	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
神戸	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
門司	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
下関	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
若松	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
長崎	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
三池	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
三池	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
小室	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
小室	一六三	一三三	一三三	一四七	一七
合計	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一
前月計	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一
備考	有料求人数二八人	求職者数三六人	求職者数二八人		

失業(推定)月報概要

一、總括表

年月別	給料生活者		労働者		その他ノ労働者		合計	
	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数
昭和四年九月	一、七三、三九	五九、二八	一、五二、一九	九六、三六	一、二一、四九	二五、一三	一、七三、三九	六六、五〇
同 十月	一、五九、七二	六二、五〇	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、五九、七二	六九、一七
同 十一月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 十二月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
昭和五年一月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 二月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 三月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 四月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 五月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七
同 六月	一、〇〇、〇〇	六二、八八	一、五三、七四	一〇七、六三	一、二二、五三	二五、一三	一、〇〇、〇〇	六九、一七

二、府縣別失業状況

道府縣別	給料生活者		労働者		その他ノ労働者		合計	
	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数	調査人口	推定失業者数
北海道	一〇七、三七	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇七、三七	三三、二八
東北	三九、四三	一〇、五七	三九、四三	一〇、五七	三九、四三	一〇、五七	三九、四三	一〇、五七
関東	一八〇、三九	六二、八八	一八〇、三九	六二、八八	一八〇、三九	六二、八八	一八〇、三九	六二、八八
中部	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八
近畿	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八
四国	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八
九州	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八	一〇〇、〇〇	三三、二八
計	一、〇〇、〇〇	三三、二八	一、〇〇、〇〇	三三、二八	一、〇〇、〇〇	三三、二八	一、〇〇、〇〇	三三、二八

三	愛	山	山	岐	長	宮	福	岩	青	山	秋	福	石	富	島	島	岡	廣	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	
重	同	梨	賀	野	城	島	手	森	形	田	井	川	山	根	取	山	島	山	口	島	山	川	島	知	同	分	賀	
二六、三二四	七三、七四五	二四、〇〇三	一〇、八三三	二、九〇五	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	
八八五	一、八八五	二七三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	
三〇四	二〇六	一一一	一〇、六三九	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	
四六、〇七九	七四、〇四五	四〇、五九七	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	
一、九九四	一〇、二四八	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	七九七	
四四	一八八	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	一〇、六三九	
二、六九五	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	
三、八	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	
一四、〇三八	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	
五、五八八	一、八八五	一、九九二	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	二、〇三六	
三、九	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八	四、八
一七	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	一、八八五	

熊	宮	鹿	神	合
本	時	島	繩	計
三〇、三九五	一一、六五三	二七、八五三	七、〇七六	一、六六六、二六九
七五	二九三	一、一〇四	三三	七九、三二七
二、二五	二、二五	二、二五	二、二五	四、七五
二七、六三八	一五、七九九	三六、四八八	一一、二五二	一、六四四、四三三
八八一	二六四	三、七三三	五三三	二四、〇七六
三三	一七一	六、五	五〇	七、六八
六、九七三	四、三六三	四、三六三	二、七九三	三、九九、五八八
七二七	三六	一、一〇三	六四九	一、八七、七三三
一一	〇、六	二、四	三〇	四、一九
二四、〇〇五	七、七三四	一一〇、九四四	一〇、〇三三	七、〇六、〇六六
二、三四九	八三三	四、六三三	一、四三三	三六、一九二六
一九	一一	四	三	五、三

工場及鑛山労働者異動調

内務省社会局
一、工場労働者(六月分)
昭和五年六月に於ける工場労働者の異動並月末現在を見るに

解雇
計 女 男
本月 前月

主要業種別異動調

(昭和五年六月分)

月末現在
計 女 男
解雇
計 女 男
入
計 女 男
前月
計 女 男

同種工業に
轉職せる者
他種工業に
轉職せる者
歸農せる者
其他
未従業者
不詳
合計

業種別	解雇		入		月末現在		業種別	解雇		入		月末現在	
	工場数	職工数	工場数	職工数	工場数	職工数		工場数	職工数	工場数	職工数	工場数	職工数
製糖業	九六	九、〇三五	一、三三	三〇、一八	一、〇〇	三、〇〇	製糖業	三、三	一〇、九	一、一	三、三	三、三	一〇、九
紡績業	三二一	一三、三六八	一、二二	三、一〇	三、〇〇	一、〇〇	紡績業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
織物業	四九	六、四四〇	三九	三、九四	三、〇〇	一、〇〇	織物業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
機械製造業	一三三	一、〇四四	五	六六	一、〇〇	一、〇〇	機械製造業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
船舶車輻製造業	三	一、〇四	三	三	一、〇〇	一、〇〇	船舶車輻製造業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
金属品製造業	一七五	一、〇五一	一七	一、〇	一、〇〇	一、〇〇	金属品製造業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
窯業	一五	一、〇三六	一五	一、〇	一、〇〇	一、〇〇	窯業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
製紙業	八七	九四三	四	四	一、〇〇	一、〇〇	製紙業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
製油及製糖業	九	六〇	九	六〇	一、〇〇	一、〇〇	製油及製糖業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
製薬業	三六	八	三六	八	一、〇〇	一、〇〇	製薬業	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
合計	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	合計	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

(註) 本表は常時職工五十人以上を使用する工場に付き調査したるものなり

二、鑛山労働者（六月份）

昭和五年六月中に於ける鑛山労働者の異動状況を見るに

解雇	男		女		計
	入	出	入	出	
解雇超過	三、一〇〇	一、一七三	四、三三七		
解雇	二、三七一	二、六八三	三、九四八		
雇入	八、七七一	一、四四六	九、七七七		
合計	三、九四八	四、一〇二	八、九一三		

東京 八七四八 月未現在 鑛山敷 七〇
 大阪 三二七 月未現在 鑛山敷 三三
 仙臺 七六一 月未現在 鑛山敷 三〇
 福岡 一〇、九九九 月未現在 鑛山敷 四四
 札幌 一、〇四九 月未現在 鑛山敷 四四
 合計 三、九四八 月未現在 鑛山敷 三〇〇

次に前月及前年同月に比すれば左の如くである。
 本 月 解雇 雇入 月未現在
 前 月 一、三九四 九、七七一 二、四八七
 前年同月 一、五〇八 一〇、九九九 二、五三三
 更に解雇者を歸題別に前月と比較すれば次の如くである。

不 計 三、五五五 三、四一二
 計 一三、九三〇 一五、三八七

職業紹介所の設備に就ての研究

一、一般に就て

職業紹介所を新築せんとする場合第一に考慮を要するは位置の選定ではあるまいか、どんなに完備した紹介所を建てても交通に不便な人の集りにくひ場所だと折角完備した建物も立脚れになるであらう。それではどんな處がよいかと云へば一般を取扱ふ紹介所は交通の便のよい其の都市の中央がよい。

日備労働専門の紹介所は労働者の集居地域の附近がよい。故に前者は集中主義を採るのが理想的で後者は分散主義を採るのが理想である。一般紹介所を取扱ふ紹介所の理想を謂へば一都市一ヶ所として最も規模の大きな完備した建物とし求人も求職者もそこへ申込みの目的を達せられる。

一例を挙げれば東京市及隣接町村の紹介所数（日備労働専門紹介所を除いて）四十一箇所であり求職者は甲の處へ行つて就職口がなければ乙の處それから次から次へと廻つて行く。求人者は何枚かのはがきに申込書を書いて送る現狀である。

故に求人者求職者の利便の上から又一箇所とする場合小規模のものより完備した紹介所の設備が出来るからである。

ふに前述の如く日備労働紹介所は毎日々々労働者が集合して紹介を求めなければならないから労働者の住居してある附近に設置する必要がある毎朝電車の運轉しない時分から紹介所に集合するのは大變の事であり又彼等の労苦を少しでも軽くしてやる必要がある。そして多くも一箇所集合人員最大五百人位としたい。五年八月二十六日現在の東京市内労働紹介所の登録人員を舉ぐれば次の如し。

深 川	三、〇一二
江 東	二、三九三
玉 塚	二、六一五
新 宿	一、七〇四
技 術	二、四五四

如斯一箇所登録人員千人以上で漸く百人を收容する設備の設備しか持たない。それに集合人員が多い一ヶ所の紹介所求職者のみでいくつかの労働組合を組織し絶えず不登のピラをまき紹介所の職員に暴行を加へる等其の例枚舉するにいとまあらず其の紹介上の不便に強いで取締に困難を來す次第である。之を一ヶ所集合人員五百人を最大限度としたならば紹介所職員も求職者の顔を見知り紹介も事務的に落ちず警察力（目下朝の紹介時間は巡查五、六名宛紹介所に臨場しつゝあり）を用ひず人を本位とする温情的の紹介になり此弊害を矯正することが出来はしないか。

二、一般を取扱ふ紹介所の設備に就て

紹介所新築に就て規畫統一の規定のない現在では新築に當り市町村の財政状態の異なるに従ひ監督官廳より見て或は過大に失する虞ありはしないかと思はるゝもの又は小に過ぐるではないかの懸念あるものも認可の已むなき事情があるであらうが要は求職者の入りよい明るい感じのする建物であつてほしい求職者の過半数は失業者と云ひ得るであらうし其の失業者は失業の結果暗い陰鬱の気分になりがちで此暗い気分を脱し彼等に不満の氣持を抱かせぬ様な設備がほしい。紹介所の事務室の気分は職員の人格によつて造られることは云ふ迄もないが紹介所内の設備の如何は求職者に異常の刺激を與へるものである。

然らば此紹介所はどんな設備にすればよいのであるか従前新築のものに就て研究して見たい。職業紹介所の新築に當り先づ考慮を要するは豫算關係に依り規模の大小の設計はあらんも紹介所の設備としては事務室、待合室に力を注がねばならない而して其の地方の特性と失業量を基準として男子部女子部少年部等に区分し求人者と求職者に應ずる様にせねばならない。

大正十三年十一月「發業第三七號職業紹介法施行規則改正に關する件通達左記第六號に示せる如く職業紹介所には待合室を設け且必要に應じ男子部、女子部、少年部又は其の他の専門區分に依り適當に區別を施すことゝあり即ち最も設備に注意すべきは待合室である前述の如く求職者は紹介所の門

を入ると同時に今迄持つた氣分を明るくする様なそして紹介上能率の上る様な設備にせねばならぬのである。

大正十二年職業紹介事務局設置以來の新設せし紹介所の設備を見るに不良と認むるものを除き大體カウンター式と呼込式の二つに分けることが出来るであらう。

カウンター式とは（参考圖例一参照）待合室と事務室との境をカウンターを以て仕切り其のカウンターにより求職者と應待する設備を云ふのであり呼込式とは（参考圖例二参照）待合室と事務室とをカウンターとせず他の低き仕切りを以て區別し事務室の中にて机を以て求職者に面接し一人宛中へ呼込む方法である。

以下其の利弊に就て述べて見たい。カウンター式は求職者の多い處と少い處との兩方によい。求職者の多い處では紹介係一人の面接が一日二、三十人以上にもなると少しも早く應對を終り次の求職者に面接しなければならぬから少しも早く取扱ふ事を心がけねばならないからカウンターの處で次から次へと應對する必要がある。次に少數の求職者の處は職員も從つて少ないから紹介係も受付も求人開拓も皆一人か二人でやらなければならぬ故にカウンターに於て事務を執りながら求職者に應接するのが一番便利である。即ち求職者が待合室へ入つてくると求職者の頭の先から足のさき迄見て利那的の直感を其の人の應對上の

参考として求職者を待たせることなく直に面接出来るからである。

本年七月調査に依ると人口三萬以下の市町村の紹介所の求職者一日當りは二人一分である。如斯紹介所は前述の如くカウンターとして置くのがよいと云ふのである。から云ふ設備としてをけば現在でもよし將來求職者が増加した場合でもよいのである。

求職者が多い場合カウンター式にすれば秘密の相談が出来ないと云ふ非難はあるが人事相談所でない職業紹介所はそこ迄深く立入つて相談をする必要があるだらうか。他の人と顔をかくし聲を低くして迄も秘密の職業の相談はあると思へないから拙速を尊ぶ意味からカウンターにするがよいと思考するのである。然し他人があることと云ふことで求職者の氣分を亂さぬ様に心掛けねばならない。

カウンターは机代用に出來得る設計としたい。カウンターを普通の型で作ると其處へ机を置くと求職者との應對に距離が遠くなり

位置する爲め求職者に應對するに横向となり紹介上不便を生ず故にカウンターを机代用にする如く幅を廣くし其の下に抽出等を付ける、さうすれば應接に最も便利である。

呼込式は紹介係が一人で求職者に面接する人数が十人から二十人位の處が最もよいと認むるものであり、それ以上では一人々々事務室の中へ呼込んで面接してゐては時間と手数を要するばかりで深

山の人に面接が出来ない又少人数の求職者の場合強いて如斯設備を必要としないのは前述の通りである。

之を要するに現在の紹介所としてはカウンター式を奨励したい。呼込式は現在だと人口十萬から三十萬位の市町村が一番よいと考ふるも求職者殺到のときを豫測するとカウンターにするのがよいではないからうか。

三、其の他の設備に就て

前述の如く紹介所の設備として最も力を注ぐ處は事務室と待合室の両取りであるが之も小規模の處でも男女の區別だけほしい。夫以外は土地の状況に依り少年共の他取扱ふ種別による設備を必要とするも大體小都市は男女の區分位でよくはないか。少年性能検査室の如きは専門の技術者を職員に委ねない限りは其の必要はなからうと思ふ。今迄の新築を見るに人口三萬に充たない小都市でも専任職員一名位の處で少年紹介室、性能検査室、性能検査機械室等小さな室に區別して其の實際を見るに機械もなければ机もない唯の喫室として置く處があつた。斯くの如くするより會議室にでもしてをき必要に感じ區別したならどんなに便利ではなからうか。人口十萬人位の都市でも現在は求職者一日に八人位しか来ない現状である。紹介所で小さい室を幾つも作るは實際上を考へると相當考慮を要する問題である。

都市以外はその必要がないではないか。職員が一名か二名に求職者が一日六、七人位の處で別に一室へ入つて話す用事があるだらうか。八人求職者が来るとしても一時間一人の割合である。一人一時間面接する程の事は人事相談所でない限りはないだらうと思ふ。さうすると求職者の在所する時は少ない。いつでも職員だけの時が多いそれに應接室の必要ありや必要なしと云ひたい。

四、既設の建物を紹介所に利用する場合

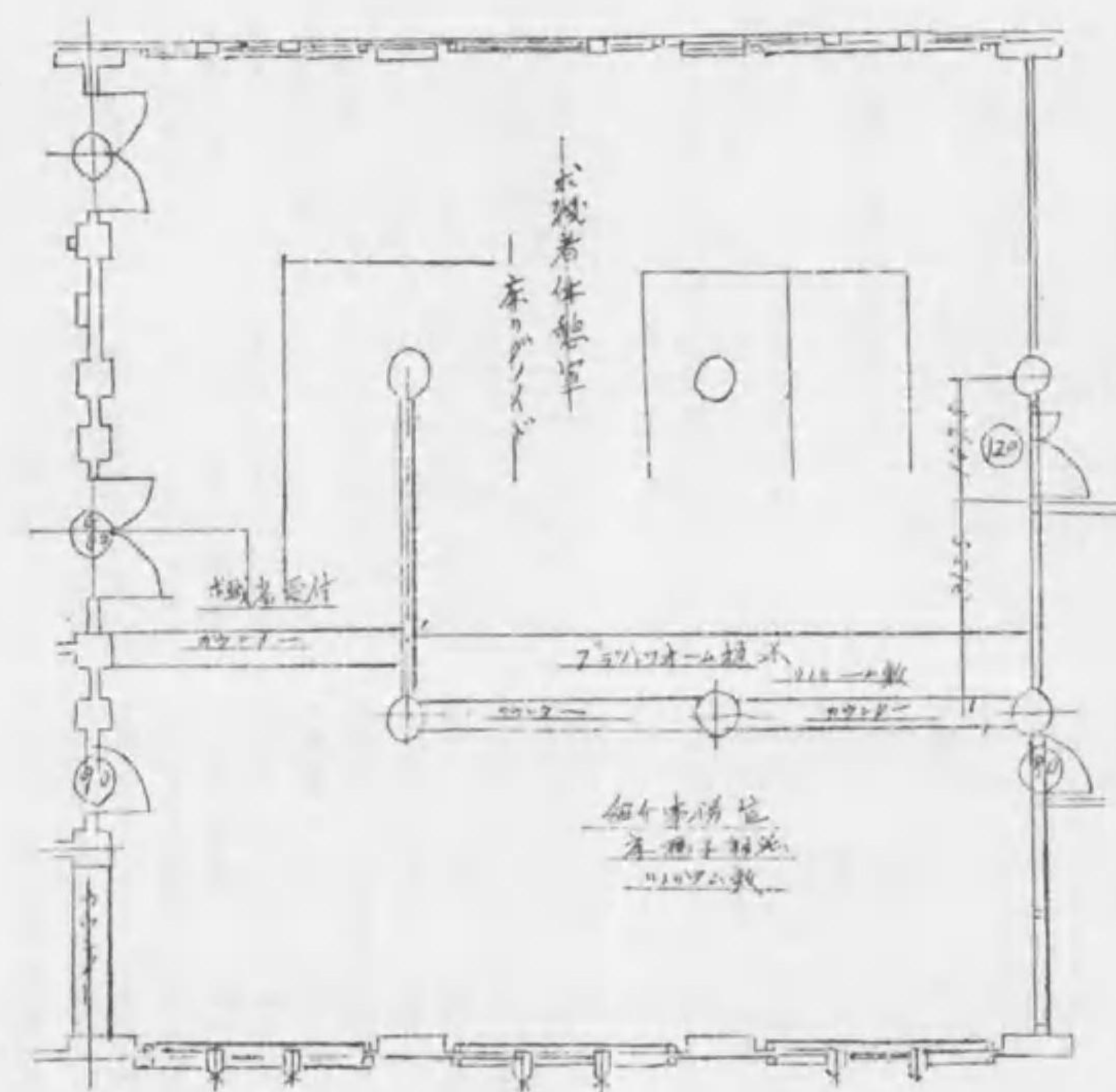
既設の建物を以て紹介所とする場合は設備は可成前に述べた様にすることがよい。又市町村役場の一部を紹介所に充當するときの如きは多くの場合男女の區分も待合室と事務室との區分もいらぬ。唯必ず紹介所に使用の出来る一室を選定することに心がけねばならない。此場合求職者の出入に便利な處で表玄関を可成置きたい。今迄認可した設備を見るに圓面の上では事務室に待合室に男女の區分もあれば應接室もあるが實際開所後行つて見ると紹介所は役場の事務室の他の係と混同の場所を取扱つてゐる例はしばしば見受ける處である。而して認可當時の圓面上の待合室や事務室は宿直室や小使室であつて認可の方便として圓面上の體裁をつくらう爲の手段だけであつた故に小都市で一日求職者が漸く二、三人の處では事務室だけあればそれで足りはしないか。そこに無理があつてはならない開始後求職者が殺到して来たときはそこで始めて監督上設備を大にする事を勧めたらよい

ではないか。役場の一部を利用するものに對し新築すると同様な無理な要求を強いてはならないと思ふ。實際出来るだけの事を要求するのがよいではないだらうか。

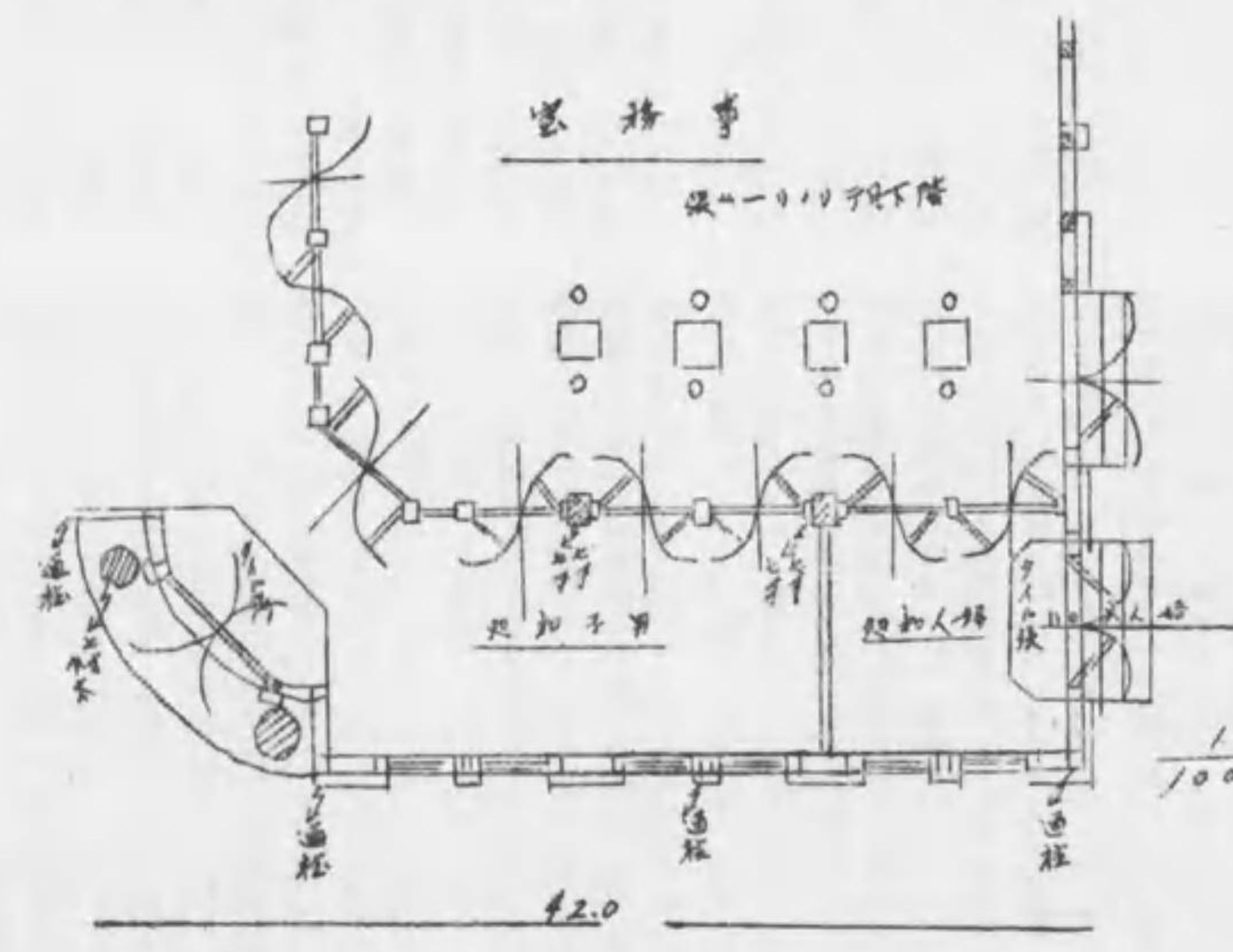
五、労働紹介所に就て

労働紹介所は毎日々同じ人が集る。そして紹介を受けて働きに行くのであるから集合する人員は殆ど同じになる譯である。故に前述の如く紹介所は分散主義を採り、二紹介所の集合人員を最大五百人位に止めるやうに各所に設置がしてほしい。そして紹介所の設備は各市である様な設備でよいと思ふ。即ち留場と事務室とあればそれでよい。唯留場は可成廣くほしい。そして共済組合の事務も中で執れる様に事務室の廣さを必要とするとして賃銀立替の爲には窓口を設備しなければならぬ。財政が許せば附近に職員の宿舎も必要ではないからうか。

(参考圖例1) 東京市中央職業紹介所 事務室求職者待合室ノ一部



(参考圖例2) 西里町職業紹介所 事務室待合室ノ一部



市町村立職業紹介所職員及求職者調査
五年七月上旬調査

市町村人口	求職者数	調査所数
三萬以下	一・二	二・一
三萬—五萬	二・一	七・八
五萬—十萬	二・五	七・九
十萬—十五萬	三・〇	一・六
十五萬—二十萬	四・二	一・三・三
二十萬—三十萬	二・六	一・三・四
三十萬—四十萬	四・三	三・七・〇
四十萬—五十萬	六・〇	五・八・四
五十萬以上	六・〇	五・八・四

一、本調査は職員は紹介所全部に付求職者は労働紹介所を除きたる全部に對しなしたるものとす
二、求職者一日一ヶ所當りの数字は昭和四年四月一日より昭和五年三月末に至る求職者数を合計し(出勤日数(二百九十五日)を以て除したるものとす。

性能検査法(精神) (一)

文學博士 濱路 潤治 郎
本稿は本局主催第二回職業紹介講習會に於ける講演筆記である。

我々が個性といつて居るものは、御互の人格を種別のあるものとして眺めた場合の有様である。よく一方では人間は誰も皆同様なもので大した違ひがないものだといふ議論と人と人とは異つて居る

ものだといふ議論とある。何故二つの議論が成立つかといふと、元來單一性の人格を一様性の方からと差別性からと眺め方により人格の趣きが變つて来るからである。私共の人格活動或は精神活動とも云ふこの活動を普通に智性意の三つの方面に別ける。智の働きとは、種々の物事を認識する働きである。感情の働きとは、前の客觀的のものを認め識る働きに對して、恰度主觀的の働きである。自分の心の中に於ける状態の變化を指すのである。次に意思の働きは、主觀的な心持をもつて居る人間が、外界の他人とか事物とかに對して發動するものである。それで我々の人格の差別もまたこの精神生活の三つの働きに應じて區別されるのである。

一、才能、氣質、性格

智的の働きは頭の非常に鋭い人、頭の良い人があるかと思ふと、頭の働きの鈍い人、或は頭の悪い人がある。智的の働きの個性の違ひがある。さういふ智的の働きの上に認める個性的違ひを私共は才能といふ言葉でいひ表はしてゐる。智能といふ言葉でいひ表はす場合もある。これには運動の働きが加はつてゐるから單に智能といふのは更に狭いものである。次に感情では非常に氣の短い人がある。或は長い人がある。或は外界のものが氣になる人がある。さうかといふと餘り物事を氣に留めないで平氣の平左で居る人がある。感情の反應からは、速い人遅い人、強く感じる人餘り感じな

い人、さういつたやうな違ひがあつて、感情的個性の違ひといふものが見出されるのである。それを感情的個性といふ普通は氣質といつてゐる。外界へ働きかける意思では、果斷決行的のものもあれば、優柔不斷のものもある。或は始終家の中にとぐるを巻いて居つて、消極的、退嬰的の人があるかと思ふと、何でも遠慮せずに積極的に運んで行く人がある。これを内向的性質、外向的性質と云ひまた内氣と外氣とかいふてゐる。次に一旦或動機に従つて行動しやうと決心するともう變へない。いつまでも嚴守して行つて目的の到達するまで勇往邁進する人、始終目的がぐらぐら變る人達がある。前者を意思が鞏固な人であり、後者を意思の薄弱の人間であるといつてゐる。或は自分のなした事柄が道徳的に善い事か悪い事かを見て、品性の善良なもの、宜しくないものとかういふ區別を立てられる。いひ換えれば意志的個性が性格であり、智的個性が才能であり、情的個性が氣質である。各人智情意の働きの違ひがある。社會を見ると職業活動にては才能に特長をもつてゐて、頭の悪い人に充分勤まるものもあれば、頭の良い人でなければ勤まらぬものもある。或種の缺陷があつては勤まらぬ人、例へば眼が悪くつては勤まらぬ人もある。耳が少し聞こえないでも勤まるものもある。人好きの悪い人では不可ないものがある。これ等は實際職業活動に影響あり關係をもつて居るもの

である、氣質の場合でさうである。短氣な人間は到底勤まらぬものもあれば、また餘り春氣過ぎた氣の利かないものでは勤まらぬ仕事がある。殊に氣質といふものは生れつきと餘程關係をもつてゐて身體の生理的狀態に生れつききの生理狀態に關係をもつて居る。これは中々變へやうとしても變へる事の出来ないものである。感情を外に表はすことを防げても氣質は變へ難いのである。

尙氣質には胆汁質、粘液質、多血質、神經質の四つがあつて生れつき胆汁質であるものを神經質に變へてしまつたり、粘液質の人間を多血質に變へることは中々出来ないものである。唯々さういふ感情の状態を外に發動する場合、意思でコントロールして外へ現さないやうにする事は出来る。さういふ氣質が實際生活上種々な關係をもつて居る。だから種々の實際活動に従事する場合、或職業は或氣質の人を取り、また他の職業の活動には或種の氣質の方が望ましいといつた様な、氣質による職業適性が問題になる。

それから實際生活或はその他の實際活動に主要な關係をもつて居る。優柔不斷の人間には仕事の出來ないものがある、といつて餘りどん／＼積極的にやつては困る。却つて大事をとつてくれる方がいい場合もある。また道徳的缺陷、どこか徳性に於て缺ける處の人間では困る。或は物事が几帳面でない人間がさういふ仕事に就くと、性格上の缺

點が實際事業の上に障礙を惹起し易くなるのである。種々の性格上の個性的違ひに對して、やはり我々が考へなければならぬ職業的適性といふものがある譯である。

二、個性認識と個性判断

それではさういふ個性を識るには、どういふ風にするかといふことがこの次の問題である。よく聞く言葉であるが、俺が一目睨めば、どういふ人間であるといふ事が分ると、これまでの経験から見ると狂ひがなかつたらうと思ふがどうも百發百中狂ひのない洞察力を具へて居る者はまあないと思ふのである。それでこれまで種々研究した経験ではこの社會で普通種々使はれて居る人物認識法には頼りにすべきものがあることは勿論であるが、中には非常に頼りにならないものもあるのである。どういふ人が、どういふ方法で鑑別するかといふことが重要なのであつて、誰がどういふ方法を用ひて眺めて見ても、直ぐにどんな人物でも認識が出来るといふ譯のものではないのである。個性を認識する方法を大別すると、二つの方法になる。それを私は個性認識の方法及び個性判断の方法と名付けてゐる。

個性認識の方法とは長時間或は屢々同一の人物と交際して、その人物の言語舉動一切の爲すところを仔細に觀察することによつて、その人物の個性について知識を得る方法をいふ。次に個性の判断と云ふは、偶然出會つた人間に對して我々が即

座に觀察して、その人間がどういふ個性をもつて居るかといふ判断方法である。

故に個性認識方法と、個性判断の方法と、どちらが正確かといふと、やはり長時間屢々交際つて人物を觀るところの、個性認識の方が確かなことは、いふまでもないのである。即座にその人物を觀ただけでは、或は即座にその人物の爲す處を見たゞけで、中々その人物の個性的特長は分らない。占者が手を見て判断するやうな譯には行かない。だが個性認識が充分役に立つかといふと、これも或人の場合或方法の場合にはあてにならないのである。例へば一番原始的な方法の中に印象法といふものがある。これは個性認識法の一つであるが、自分が熟知して居る人間を、その人間から得た印象を基として而も主觀的の判断を下し、その人物を判断する方法である。例へば親が子供を觀る、或は父兄近親が子弟の觀察をするといつたやうな場合に、子を觀ること親に如かずなんといふ譯があるが、併しこれはいつの場合にも當て嵌る眞理ではない。親の慈目、或は子凡間の親は目を晦まされるとかといふ譯が外國にあるが、或は男女間の事について云へば、夫は妻の個性をよく飲込んで居り、妻は夫の個性を飲込んで居るとは云はれない。積極的に惚れた慈目でよく見えた、或は嫉妬の餘り疑心暗鬼を生じて、人物性格を觀るといふことがあり得るのである。多くの場合父兄近親といふものは、個性の鑑別といふことに特別な

興味をもつて居ない人がある。また興味をもつて居つても、鑑識眼を具へないので偶然或事柄によつて得た印象を基として、主観的に判断するのであるから判断に誤りが這入り易い。鑑識の場合には客観視しなければならぬ。父兄近親の場合には客観視が容易でないのである。然し父兄や近親が相當に鑑識眼を備へて居る人で、而も個性の鑑別といふことに興味をもつて居り、自分の感情を混へないで冷静に鑑識することが出来た場合は、接觸の度合が非常に多いために、他の如何なる方法よりも完全な方法となり得るのである。故に如何なる父兄が如何なる方法で、その子弟を眺めるかといふことで、かういふ方法の價値が定まつて来る。

第二は受持先生の品評である。先生は教育者である以上公明正大に子供の爲す處を見る、殊に多くの場合には學業成績等を基として出来不出来、或は教室内の言語舉動操行を基として人物性格を判断するのであるから正確であるが、實際は感情的の先生になると、その子供に対する好き嫌ひの表現に過ぎない場合がある。これは私が行つた簡単な實驗の示す丈では、種々な子供の寫眞を先生に見せて頭の良否、性格の良否を品評させた處が、その品評の結果に好き嫌ひがある。つまり好きな子供はよく出来る、性格が良いとさう見たがる、無論成績が良いから好きになる。或は人物がよいから好きになる、或はその人間の成績が不良であるか

ら嫌ひになる。或は人物が悪いから嫌ひになるといふことがあり得る、今の實驗は全然子供を知らない先生達の品評である。併しその人間がどんな性質をもつて居るかは直接には分らぬので、好き嫌ひと人物の善悪の品評は一致し或は一致しない。これは多くの小學校の先生達がその兒童に対する品評の中に、自分自身の好き嫌ひといふものを混へて居るといふ證據になる。これはどうも人間である以上仕方がない。それで受持先生が戒心して公平無私の態度を持つて居れば比較的觀察に馴れてゐるから、他の人達よりも割合に正確な觀察を下すことが出来る。併し或先生の場合、或種の子供に對しては、餘り當てにならない場合があるのである。主観的の場合には何うしても感情が這入つて来る、不確實になり易い。それから會社や工場廻りの人事係の判断では、これも始終種々な人物を取扱つて居る關係から、正確な人物評價が出来そうに思へる然し實際それを調べて見ると餘り正確でない。これはアメリカのホーランググレースが、或製藥會社で見聞した例であるが、その會社の人物採用係の所へ求職者が多し、どうかあなたの會社で使つて下さいと申しますと、直ぐに試験をする。その試験が面白い、或部屋の中に通して、その部屋には帽子掛も椅子もないが、採用係だけは椅子に着いて居る。そこへ求職者が這入つて来ると、彼は突然に命令をする、即ち帽子を掛けて腰を下したまへと、すると求職者は驚いて四邊を見

は自分で自分を買ひ被る、氣の弱い人は自分を低目に見る。これは日本人の場合であるが、私共の同學年の者が數回調べた結果、頭の良い子供の親は、自分の頭をよく見ない。出来な子供は自分について悲觀しない、學校の成績は悪いけれども頭は悪くないといふ、頭の良い人間は日本の教育が然らしむるのでといふ、即ち儒教が謙遜とか儉約といふ事を日本の道德では説いて居るので成績が良くつても外國人程自分を買ひ被らない。これは氣質の場合でも同じであつて内氣の人間の場合には、自分自身がそんなに内氣でない。外氣の人間に限つて自分は内氣だと考へて居る。人から見ると出しゃばる人間が、自分では自分が謙遜して居るやうに考へて居る。故に自分の見て居るところと他人の見て居るところとは大變違ふのである。殊に利害關係を伴ふ場合には、自分自身で眼が眩んでしまつて、よくも見たり悪くも見たり、その場合々々によつて違つて来る、少し境遇がよくなると無暗に鼻が高くなり、少し逆境になると鼻がベシヤンコになる。これは日本人の特性である。それで普通使つて居る人物を認める方法は當になる場合とならぬ場合とがある。これは誰がどういふ方法を使ふかといふことが重要であつて、どういふ人間はどんな風に扱へば、個性を問違ひなく認識することが出来るかといふ風にはなつて居ないのである。それにも拘らず他人をよく認め識ることが出来るやうに思つて居るのは何故かといふと、自分の子供達兄弟或は友達、自分の部下、或

題す。そしてその不可能な事に憤慨する者と不意の申出で驚いて四邊を見廻しながら、にや／＼ときまじわる氣にその帽子をいぢくつたり當惑したり、もじ／＼遠慮して居る。どちらを採るかそれは別として、これによつて採用したり採用しないといふ試験をやつた。處が或採用係は第一の反應を示す者をお客係りに廻し、第二の反應を示す者を工場係りにするが、或人事係は逆をやつて、第一の反應を示すものを工場係りに、また第二の反應を示したものをお客係りに廻した。一寸思ひつきの奇抜な試験で、その結果が實際上どれ位、理窟に合つて居るかといふことは、これは問題としなければならぬと思ふ。

それがかういふ主観的判斷は一見して分るやうに、非常に出鱈目である。志願者がどちらの採用係に出會ふかといふ運不運がある、二つの場合どちらが正しいか、これは容易に解決が出来ない問題であるが、併しどちらが正しいにしろ、今少し採用の方針を明瞭にし、信頼し得る方法を明かにした處のものを用ひなければならぬ。その他口頭試問法がある。人物に面接して、問答して、これを採用する方法をとつて居る場合があるが、これとても餘り當てにならないのである。殊に一人の判定者が判断するやうな場合には、その人間の偶然もつて居る、偏見とか特殊の人生觀等によつて人物の個性の値が見誤られる場合があるから多數の人に品評させて衆評を利用するといふ方法

に出ればよいが、併し衆評を利用するといつてもそれだけで品評の結果が當になるとは限らない、例へば多數の品評者に多數の子供を見て、子供の人物性を判断して見ると、人毎に判断が違ふ。甲の人間がこの子供は人物の上では申分がないといふても、他の先生から見るとそれが他の子供よりも劣つて居る場合があるだらうと思ふ。否寧ろあり得るのである。それから同じ人間が或場合判断した結果と、他の場合判断した結果と、その間に矛盾點がある。前述の寫眞品評の場合も同様で幾枚もの寫眞を見せて、その中で一番頭の上さそうな子供と、惡そうな子供を選び出させ、それから今日私が選んだのと、二三ヶ月の後、すっかり忘れてしまつた頃に、再び選り出させると、人物が違ふのである。故に多數人が品評した結果は、お互に一致しない、同一の子供でも多數が品評する場合に一致しないことがある。さういふものを誰がいつ何回品評して見ても、品評の結果が大體動かないといふ風な品評の方法を、我々が考へて來なければならぬ。

それなら自分が自分を見れば分るか、今のは他人が他人を見たのでありますが、今度は自分が自分を見るところかといふと、これが中々分らない。何故かといふと、自分をばんやりとしか考へられない。殊に直接に利害關係を伴ふ場合には、自分の見た自分といふものが非常にあつち曲げられたりこつち曲げられたりする。圓々しい人間

は上長の人達を、御互でよく人物を飲込んで居るやうに考へて居るのは何かといふと、それに二つの理由があると思ふ。一つの理由は前述の如く我々の人格といふものは一様なものとも見ることが出来れば、差別のあるものとも見ることが出来ると同様に、差別を大きく見ることが出来るし、小さく見ることが出来る。我々の眼のつけ處や尺度の違ひによつて、人と人との差別を大きく見たり小さく見たりすることが出来る。だから我々は甲といふ人間と、乙丙といふ人間が纏まつた場合、甲と乙は非常に違つて来る。或は甲と乙と丙とは隔たつて居るといふことを、物差の目によつて見ることが出来る。こんな事柄が影響して、實際同様のものでも見方によつて、違ふのである。少々の矛盾があつても矛盾と感ぜないことがある、尤も甲乙丙の見方も見方によつて乙がこゝへ来て丙がこゝに來るといふ事はあり得ない。どの尺度をもつて見ても、或一定の場合乙はかうで丙はかうだといふ事はあり得るのであるが、これは議論上考へられないことである。併し人と人との違ひは大きく見ることが出来れば、小さく見ることが出来るといふ風に、御互が御互の人物鑑識の誤りを自ら氣付かないのである。第二の理由は、個性といふものは靜的で動かないものではないのであつて、或人間が或個性をもつて居るといふことは、その人間が一生を通じてその個性の状態に留まつて居るといふ事を意味するのではないのである。もつと變移的な、柔軟性をもつて居るものである。

昭和五年八月分日備勞働紹介旬報

Table with columns: 旬月別 (旬別, 月別), 取扱別 (東京, 大阪, 名古屋, 福岡, 青森), 天候, 求人, 求職者, 紹介件数, 職業別, 賃金 (最高, 最低, 普通), 備考. Includes a sub-table for 旬別 (上旬, 中旬, 下旬) with 48 job listings each.

昭和五年八月分日備勞働紹介月報 (三旬合計) (四十八箇所)

Table with columns: 職業紹介所名, 求人 (男, 女, 計), 求職者 (男, 女, 計), 紹介件数 (男, 女, 計), 月内ノ主ナル求人 (業種別, 賃金: 最高, 最低, 普通), 備考. Includes sub-tables for 東京地方職業紹介事務所管内, 大阪地方職業紹介事務所管内, 長崎地方職業紹介事務所管内, and 青森地方職業紹介事務所管内.

昭和五年八月營利職業紹介月報 (道府縣別及職業別)

Table with columns: 地務局別, 道府, 求人數, 求職者數, 紹介件數, 就職者數, 營業者. It provides a detailed breakdown of job introduction statistics by prefecture and profession for August 1920.

備考 日給労働者之府縣別ハ省略ス

昭和五年十月二十四日印刷
昭和五年十月二十七日發行

中央職業紹介事務局
電話九の内 二、八六七番

東京市京橋區北橋町九番地
東京市西區北橋町九番地
東京市東區北橋町九番地
東京市東區北橋町九番地
電話京橋八一三番

中央職業紹介事務局
(東京市麹町區大手町社會局内)
電話九の内(總)二、八六七番
(支)二、九八二番



東京地方職業紹介事務局
(東京市麹町區大手町社會局内)
電話九の内(總)三、八八八番
(支)三、八八九番

大阪地方職業紹介事務局
(大阪市西區南通五丁目)
電話土佐堀一、九一〇番

名古屋地方職業紹介事務局
(名古屋市中區御器所字出口番)
電話南五、一〇〇番

福岡地方職業紹介事務局
(福岡縣一、九三二番)

青森地方職業紹介事務局
(青森市柳町五番地ノ五號)
電話一、五二六番

東京市京橋區北橋町九番地
東京市西區北橋町九番地
東京市東區北橋町九番地
東京市東區北橋町九番地
電話京橋八一三番

終

